セキショウライフサポート　エリア長

荒川 淳子 さん

「お互い様」の職場環境に

関彰商事のグループ会社として介護福祉事業を担うセキショウライフサポート（筑西市）で、エリア長を務める荒川淳子さん（44）。エリア内の事業所のスタッフを統括するとともに、職員の研修、採用も担う。「人と関わることが好き。介護は人の感情にじかに触れることができる、やりがいがある仕事」と力を込める。

高校卒業後、介護の仕事を始め、2012年に設立された同社にデイサービスの立ち上げスタッフとして採用された。管理職となった現在では、現場で働く機会は減ったが、「人材育成に関わるようになったことで、同じ想いをもつスタッフが増えていくやりがいを感じている」と前向きだ。

介護職場は一般に女性が多く、同社も8割が女性という。そのため30、40代の子育て世代がいかに子育てと仕事を両立できるかに心を配る。「自分もそうだったが、子どもが小さいうちは、学校行事や急な発熱などでシフトを抜けざるを得ないことがあり、どうしても後ろめたさを感じてしまいがち。いっときのことだし、みんなで『お互い様』と助け合える職場環境を作るのが私の仕事」と語る。

自身も大学生と中学生の2人の子を持つ母親。「介護は365日24時間態勢の仕事で、家族の協力がないと続けられない。特に女性は家庭での役割も大きいのでなおさら」と話す。

その一方で「家の仕事は女性がやるものという意識がまだ根強く感じる。職場だけではなく家庭でも『お互い様』と相手を思いやり協力し合えるようになれば、女性はもっと外で働きやすくなる」と願う。

介護現場も近年、外国人が増え、多様性のある職場となっている。「男性だから、女性だから、外国人だからというのではなく、個人の強みをうまく生かしながら共に働ける職場にしていきたい」と力強く語った。